

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。 京都教育大学連合教職実践研究科
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・京都教育大学教職大学院コラボ研修】 京都教育大学学校経営協働研修
支援事業報告書	研修等名【NITS・京都教育大学教職大学院コラボ研修】 京都教育大学学校経営協働研修 （その1）—カリキュラム・マネジメントと学校財務のための実践演習— （その2）—リーガルマインドのための実践演習— ※内容をわかりやすく伝えるためのタイトルを記入してください。
	開催日時：（その1）令和5年12月25日 13時30分～16時30分 （その2）令和5年12月26日 13時30分～16時30分 開催場所：京都教育大学（京都市伏見区深草藤森町1） 参加人数（総数）と参加者の属性： （その1）（49人）京都府教育委員会12名、京都市教育委員会31名、私立学校等6名 （その2）（52人）京都府教育委員会25名、京都市教育委員会25名、私立学校等2名

**内容：**※全体発表の内容をテーク起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

京都府下の教育関係者を対象として、学校経営に関わる力量形成のための研修を以下のような内容で実施した。

（その1）—カリキュラム・マネジメントと学校財務のための実践演習—

講師：風岡 治氏（愛知教育大学教育科学系教育ガバナンス講座教授）

学校財務マネジメントは、「予算・財務面から学校のマネジメントを支えるための条件整備について、校内での財務運営のあり方や公費・私費の負担区分、財務を通じた学校経営ビジョンの実現にむけたプロセスを焦点化したもの」であり、学校の自主性・自律性を確立し、特色ある教育を実践していくうえで重要な営みである。そのために、まず学校にある予算を「見える化」し、予算についての情報を共有し、その編成、執行の体制を整えることが必要である。さらに、「令和の日本型学校教育」の推進において求められる教育を展開するために、各学校でのカリキュラム・マネジメントと学校財務マネジメントを連動させ、子どもの学びを組織的に豊かにすることが重要である。課題として、学校予算に関してのマネジメント機能の強化のため、教職員の意識の低さや知識不足を克服し、カリキュラム・マネジメント、学校財務マネジメントを機能させる管理職、教員、事務職員の連携・協働を進めていくことが必要である。

（その2）—リーガルマインドのための実践演習—

講師：中川 勘太氏（多聞法律事務所弁護士）

学校教育に関わって様々な法的問題が生じるが、法的責任は結果責任として問われるものではない。教育を行う学校には、広範な裁量、すなわち教育の判断が尊重される。学校の裁量の範囲の事柄に対しては、違法とは評価されないことになる。法的な問題は、その裁量の範囲を超えたり、その権限を誤って行使したりする場合である。学校、教員には、その裁量権について適切に理解することが求められる。

学校事故に関わる事例については、安全配慮義務に反して、過失、すなわち予見や結果回避を怠る場合などに責任が生じる。留意すべきは、安全配慮義務の水準は不変ではなく、時代と状況に即した判断が求められること、学校事故が起こることを前提とした危機管理体制を整備することである。

いじめについては、特に結果責任が問われるものではないことに留意し、組織的に対応し、公正で、正確に事実を把握し、教育のプロとしての判断をしていくことが重要である。特に保護者との連携が重要である。

懲戒については、懲戒それ自体が教育的判断であることから、学校、教員の裁量は広範に認められることを認識することが重要である。その上で、裁量の逸脱・濫用として違法となる懲戒に対する理解を深めることが必要である。体罰は、裁量の範囲には含まれないことに留意することが重要である。

**成果：**（事後アンケートより）

（その1）—カリキュラム・マネジメントと学校財務のための実践演習—

「研修内容に対する満足」は、43人中、十分23人、おおむね20人、「課題意識が深まった」は、十分22人、おおむね20人、「実践に活かせるものを得た」は、十分23人、おおむね20人という結果となり、好評であった。感想としては、「教諭である自分にとっても大変分かりやすく、これからは財務のこともしっかり知っておきたい！」と意欲が高まりました。「教育活動の事業化は、今年度、自分自身のテーマとして取り組んでいることで、大変勉強になりました。少ない予算をいかに有効活用するか、また、いかに財源を獲得しに行くか、考える貴重な機会になりました。前向きな期待が持てる時間になりました。」など、肯定的なものが17件も寄せられた。

（その2）—リーガルマインドのための実践演習—

「研修内容に対する満足」は、51人中、十分39人、おおむね12人、「課題意識が深まった」は、十分39人、おおむね12人、「実践に活かせるものを得た」は、十分38人、おおむね13人という結果となり、好評であった。感想としては、「現場に役立つ内容であり、更なる学習の必要性を感じました。」「事例ありきのリーガルマインド講習は大変参考になりました。」「内容が非常に具体的で法的な観点と教育における指導の観点両面からこれまでの活動を振り返る事ができました。」など、肯定的なものが22件も寄せられた。

**アイデアや工夫したこと：** ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ・学校現場において日々、直面している問題状況に向き合える内容とすることに注力した。そのため、実務面での経験が豊富な講師を招き、その経験、専門性を生かすことを考えた。
- ・受講者が自らの実践、勤務校の実態を振り返り、考察することができるように、問題現象の背景、その課題を浮かび上がらせる内容になるように心がけた。
- ・実践に生かすことができるように、グループ協議や事例に即した演習課題を議論する時間を大切にした。その協議の中で、自らの実践や勤務校のあり方について振り返ることを期待した。

**<写真・図など>** ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

（その1）



講義風景



グループ協議を行い、参加者間で意見交換を行う様子

（その2）



講義風景



事例に即した演習課題について、数人のグループで意見交換を行う様子